

## モーリタニア国オアシス地域開発計画調査

(調査期間：2001年6月～36ヵ月、担当業務：治砂/植林/資源管理/普及)

### 調査背景

アフリカ大陸西端に位置するモーリタニアイスラム共和国は国土の大半が年間降水量 50mm 以下の沙漠地帯である。このような各おくな自然条件のもとでオアシスにおける生活環境は厳しく、水資源により大きく制約される。こうした中、オアシス住民は独自の伝統社会を培ってきた。しかし、近年の度重なる干ばつの発生はオアシスの主要産業である農牧業に大きな打撃を与えている。オアシス地域の開発には IFAD (国際農業開発基金)、FADES (アラブ開発基金) による支援が行われているが、更に多くの支援を必要としている。このような状況で、モーリタニア政府は Adrar 州と Tagant 州のオアシス地域の開発をより充実したものとすべく、1999 年に日本国政府に対し住民の生計に関する生産活動の持続性確保と持続的土地利用を目的として、地域資源の適性利用によるオアシス地域開発のためマスタープラン調査を要請した。

### 調査概要

調査は対象地域の現況解析と地域開発計画 (M/P) の概定、実証調査地の選定からなるフェーズ I と実証調査のフェーズ II からなっている。全オアシスに対し、インベントリー及び社会経済調査を実施し、各オアシスの一般状況を把握する。この中で、地域内の限られた水資源の有効利用と地域資源の利活用により、オアシス産業の活性化と住民の生活環境の改善を如何に図るかが大きな柱となっている。このため、実証調査では野菜栽培 (作期の多様化と灌漑方法の改善、資源の有効利用)、ナツメヤシ節水栽培 (送水ロスと灌漑水量の軽減)、鶏飼育 (資源の有効利用、肥料源の供給) などが行われている。

### 担当事項

- 対象地域の自然環境、飛砂・堆砂の現状、植林状況、普及に関する情報収集及び解析。
- 栽培、堆肥製造などの普及マニュアルの作成。
- 飛砂・堆砂防止に関わる保全計画、将来の優先プロジェクトの策定。

